

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（25日）10時30分から、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第1飛行隊の協力を得て上空からの調査を行いました。火口内に蓄積された溶岩の大きさは、18日に行った調査と比較して大きな変化はありませんでしたが、火山灰や噴石が堆積しており、溶岩と火口壁との境界は不明瞭となっていました。溶岩の表面には南北に走る亀裂が認められました。

新燃岳火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

○活動概況

・上空からの調査（図1、図2）

本日（25日）10時30分から、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第1飛行隊の協力を得て上空からの調査を行いました。蓄積された溶岩の大きさは、18日に行った調査と比較して大きな変化はありませんでしたが、火山灰や噴石が堆積しており、溶岩と火口壁との境界は不明瞭となっていました。溶岩の表面には南北に走る亀裂が認められました。また、火口縁を超えない程度の白色の噴煙を確認しました。

赤外熱映像装置¹⁾による観測では、18日と比較して大きな変化はありませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・ 火口内に蓄積された溶岩の大きさに変化はありませんでしたが、火山灰や噴石が堆積しており、溶岩と火口壁との境界は不明瞭となっていました。
- ・ 溶岩の表面には南北に走る亀裂が認められました（白丸で示した部分）。

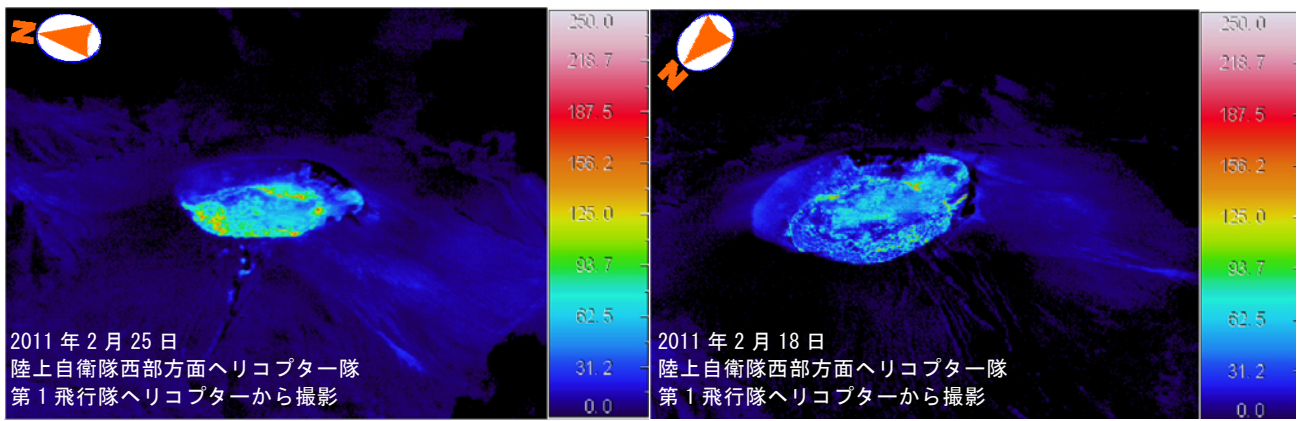


図2 霧島山（新燃岳）火口付近の地表面温度分布
赤外熱映像装置による観測では、18日と比較して大きな変化はありませんでした。